アンケート集計資料

「残骨灰の取扱いに関するアンケート」
結　果　報　告

調査期間：
令和8年7月1日（水）から8月31（月）まで

対象者：
18歳以上（市内・市外を問わない）

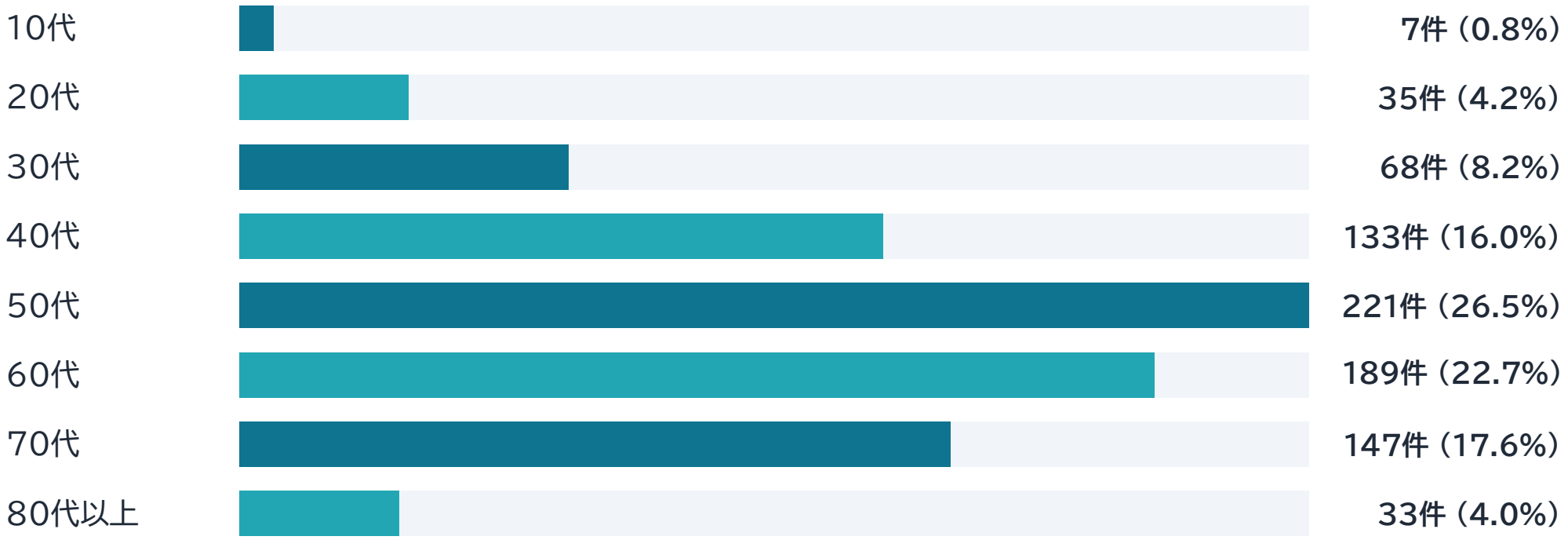
回答数

833件

1. 調査概要・回答者属性

総回答数	西尾市内	西尾市外	最多年代
833件	761件 91.4%	72件 8.6%	50代 221件

年代別回答者数



2. 残骨灰有価物等の認知度

問3 有価物が含まれることを知っている

47.3%

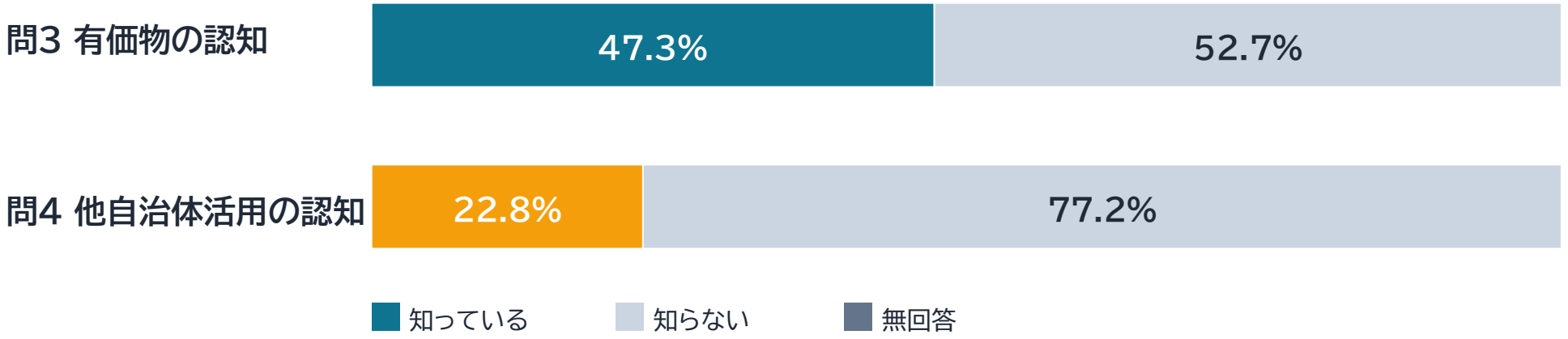
394件 / 833件

問4 活用している自治体があることを知っている

22.8%

190件 / 833件

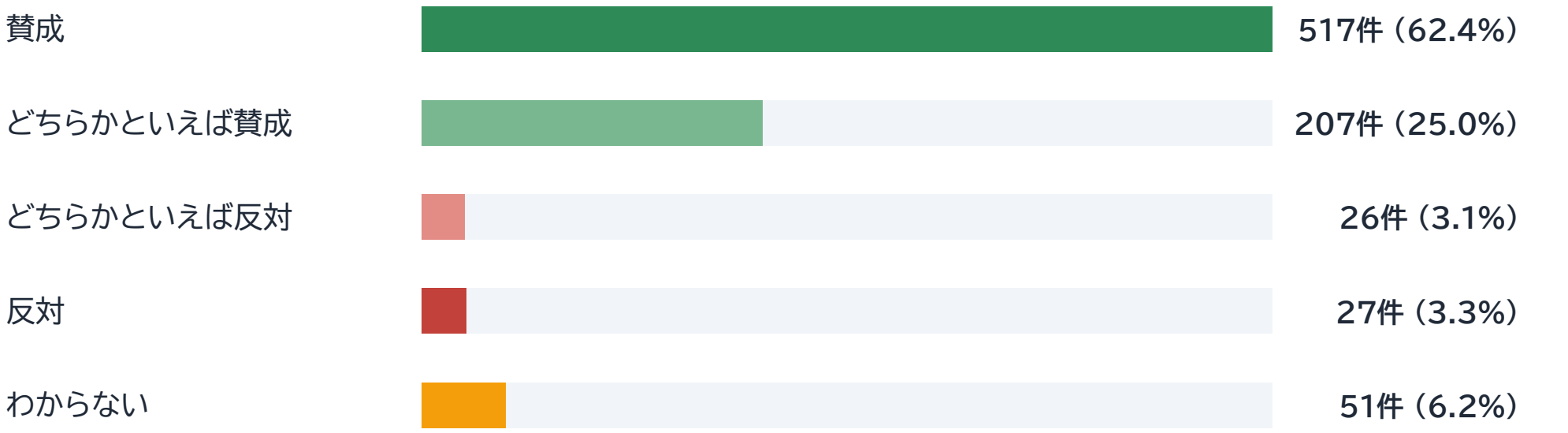
回答構成



3．有価物の財源活用への賛否（問5）

賛成計	反対計	わからない	問5回答者
87.4%	6.4%	6.2%	828件
724件	53件	51件	無回答 5件

回答別の件数と構成比



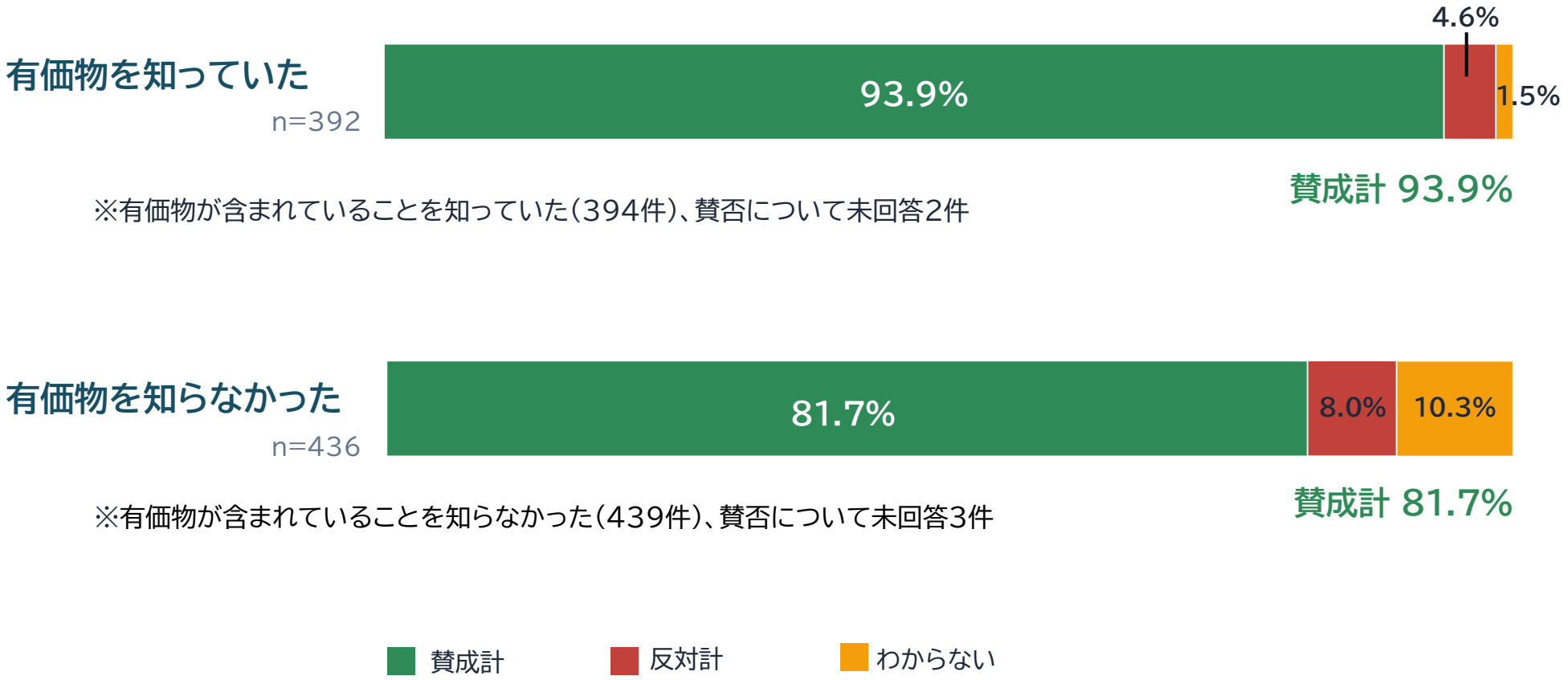
4. 年代別にみた財源活用への賛否

各年代の問5回答者（有効回答）を分母として算出

年代（母数）	構成比グラフ	賛成計	反対計	わからない
10代（n=7）		57.1%（4件）	28.6%（2件）	14.3%（1件）
20代（n=34）		82.4%（28件）	11.8%（4件）	5.9%（2件）
30代（n=68）		82.4%（56件）	13.2%（9件）	4.4%（3件）
40代（n=133）		82.7%（110件）	9.0%（12件）	8.3%（11件）
50代（n=220）		88.2%（194件）	7.3%（16件）	4.5%（10件）
60代（n=189）		89.9%（170件）	3.7%（7件）	6.3%（12件）
70代（n=145）		91.0%（132件）	2.1%（3件）	6.9%（10件）
80代以上（n=32）		93.8%（30件）	0.0%（0件）	6.3%（2件）

5. 有価物の認知と財源活用への賛否

問3の回答別に問5の構成を比較



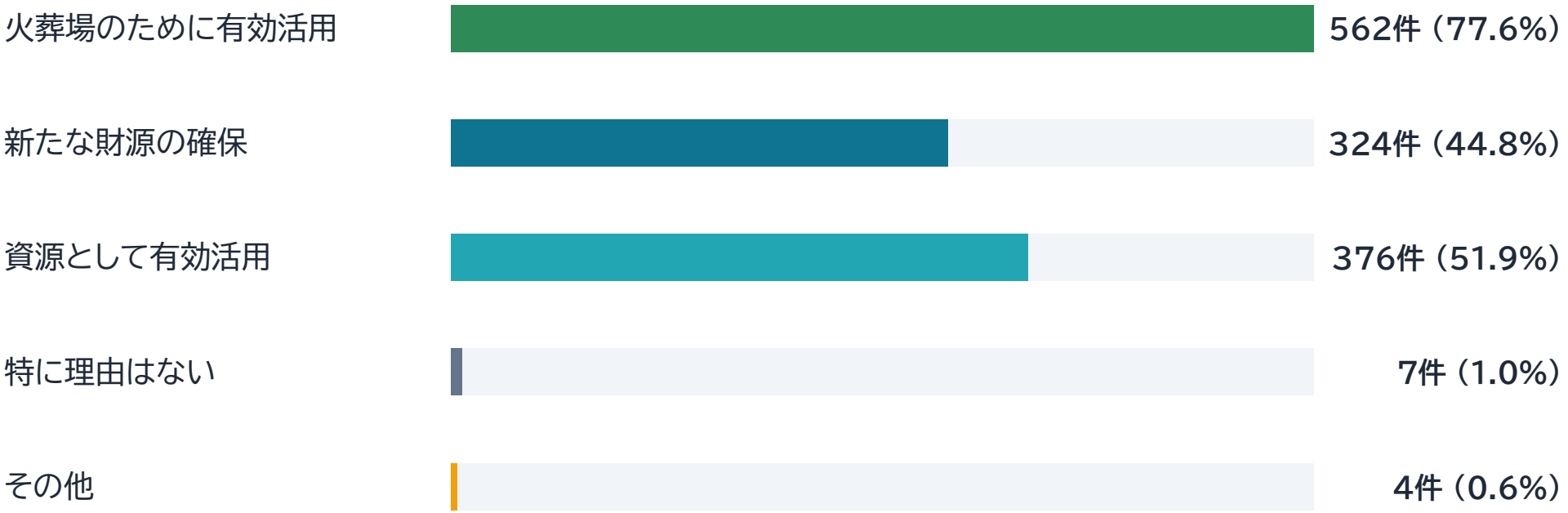
6. 賛成・どちらかといえば賛成の理由

複数回答。割合は賛成側回答者を分母として算出

賛成側回答者

724件

賛成 ＋ どちらかといえば賛成



【その他ご意見】
・遺族同意があれば問題ない（40代・2件）
・残った灰が有効活用されるなら良い（40代）
・遺族や市民の心情を逆撫でしない丁寧な説明を要望（50代）

※複数回答のため合計は100%になりません。

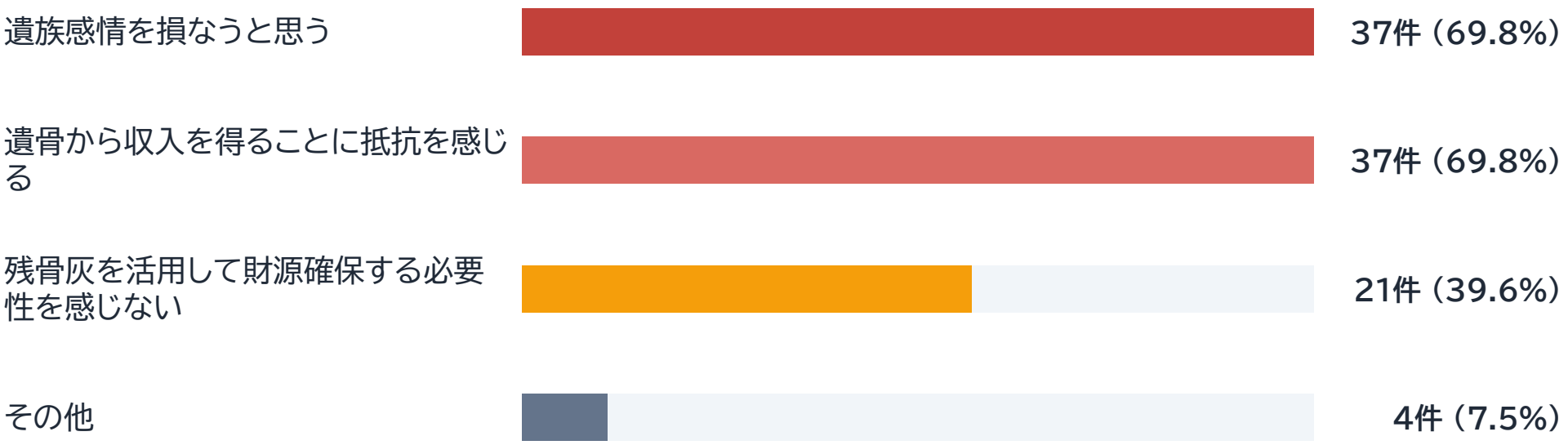
7. 反対・どちらかといえば反対の理由

複数回答。割合は反対側回答者を分母として算出

反対側回答者

53件

反対 ＋ どちらかといえば反対



【その他ご意見】
- 残骨灰の収益化は避け尊厳を重視し、まずは歳出改革を尽くすべき（10代）
- 有価物は遺族へ返還し、修繕費は火葬料値上げで賄うべき（10代）
- 将来自分がそのような扱いを受けることに抵抗がある（40代）
- 財源確保のためでも手段は選ぶべき（60代）

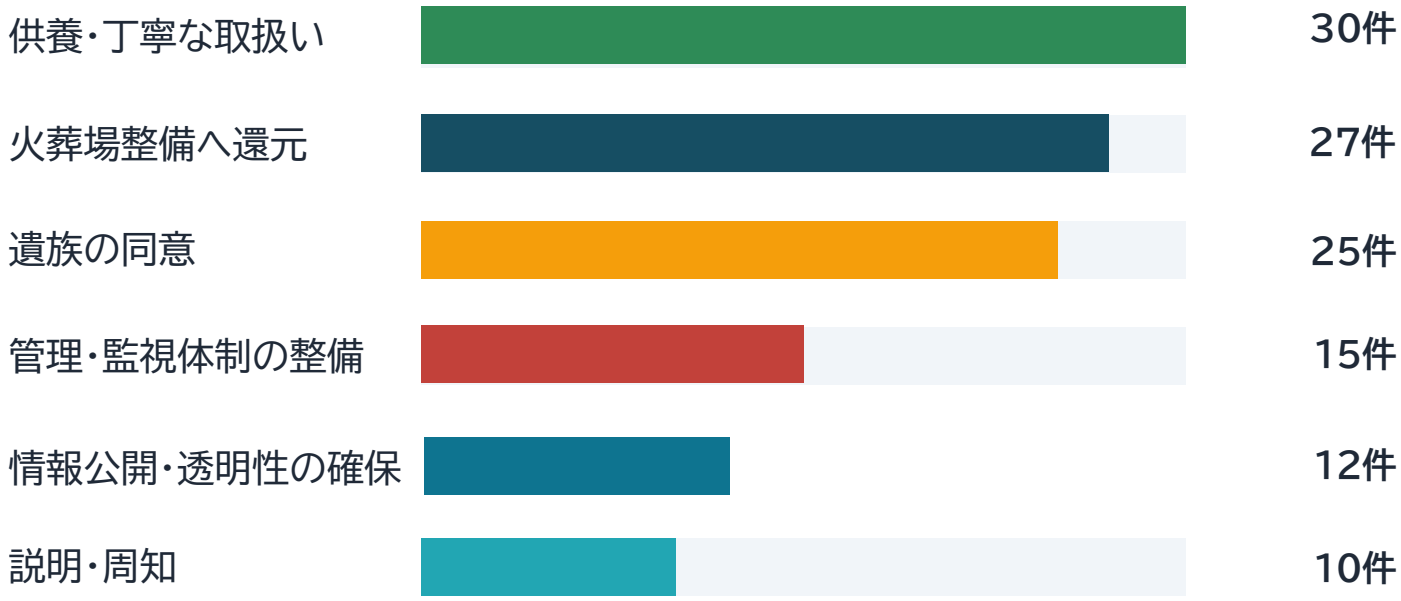
※複数回答のため合計は100%になりません。

8. 自由意見

自由意見をテーマごとに分類し計上

182件

空欄・「特になし」等を除く



【自由意見欄に寄せられた主なご意見（抜粋）】
- 厳しい財政の中、最後の恩返しとして有価物をぜひ活用していただきたい（30代）
- 残骨灰について知る良い機会となった（40代）
- 有価物が含まれている実態を初めて知り驚いた（50代）
- 財源の確保に繋がり結果がでることに期待（50代）
- 社会への最後の貢献として故人も喜ぶと思う（60代）
- 金属量は今後減少するため、目先の売却益にとらわれず、老朽化した火葬場の建替えを含め長期的視点で市の最善策を検討すべき（60代）
- 生きてきた大切な身体であり勝手な利用に反対（60代）
- 残骨灰の丁寧な扱いに感謝しつつ、施設の老朽化や多死社会を見据え、施設改善のための有効活用（資源化）に賛成（70代）
- 市のためになるのであれば、是非取り組んでほしい（80代）